

日用品工業団体協議会 工場見学会 2023 報告書

～滋賀県・湖東&東近江エリア 工場視察ツアー～

1. 日程

2023年11月17日(金)～18日(土)

2. 見学場所

～1日目～

- ・株式会社コクヨ工業滋賀
- ・タカスタンダード株式会社びわこ工場

～2日目～

- ・多賀大社、胡宮神社
- ・キリンビール滋賀工場
- ・彦根城

3. 参加者

氏名	所属など
西部 弘司	協同組合ハウネット 顧問
井上 昌治	(一社)日本硝子製品工業会 専務理事
岡本 幸男	(一財)生活用品振興センター 専務理事
大沼 章浩	(一社)全日本文具協会 専務理事
春原 政則	日用品工業団体協議会 事務局 [(一財)生活用品振興センター 業務部長]

4. 見学場所詳細

～1日目～

【株式会社コクヨ工業滋賀】

訪問日時 2023年11月17日(金)12:50～14:30

応 対 者 取締役 事業部長 水野 浩伸 氏
総務グループ 主任 山田 麻美 氏

コクヨグループの主力工場であるコクヨ工業滋賀は、日本一大きな湖「琵琶湖」や、山々に囲まれた豊かな地にある。一般消費者、特に学生に愛用されている「キャンパスノート」を主に、リングノートやルーズリーフ、伝票、コピー用紙などを生産している「国内最大級」の紙製品の生産現場である。

設立：昭和63年10月1日

資本金：1億円

従業員：140名

コクヨのグループ工場で一年間に生産されるノートの総生産量はおよそ1億冊。高さになると富士山を縦に100個重ねた高さであり、また、スカイツリーだと580本相当の高さになるとのこと。わかり易いのか、わかり辛いのか微妙な表現である(苦笑)



～キャンパスノートの歴史～

展示室には、見慣れた歴代の「キャンパスノート」が展示してあった。このキャンパスノートは誰もが学生時代に愛用していた商品であろう。お話によると、10年前後でのマイナーチェンジを繰り返して、現在のデザインが5代目のこと。私も中学、高校、大学時代に使ってきた商品であり、2代目のデザインが妙にしっくりきたのだが、真面目に勉強していた中学、高校時代のデザインとわかり、妙に納得した。マイナーチェンジを繰り返し、多くの世代に愛され続ける定番商品。あなたの定番は何代目だろうか？

1975 (昭和50年)

こだわりの原点

1959年、当時主流であった糸とじとはまったく違う「無線とじ」を製品化。その後改良を重ね、お客様に満足いただけるような品質を追求し、1975年、全国の学生向けに初代キャンパスノートを発売



1983 (昭和 58 年)

表紙の役割へのこだわり

さらなるお客様満足を目指し「表紙」に注目。中を見なくても罫内容が分かるよう A 罫・B 罫の英文字と罫線イメージを大胆に表示。新しくロゴを作成し、親しみやすく飽きのこないデザインで社会人にも定着。



1991 (平成 3 年)

デザインの独自性へのこだわり

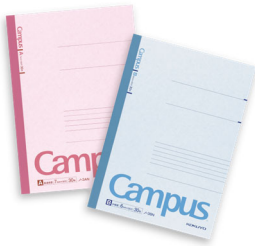
市場の拡大に伴いお客様の選択肢が増える中、過去に類を見ないビビッドな色使いと、縦にロゴを配置するという思い切った変更を行い、とことんデザインにこだわることでさらなる独自性を高める。



2000 (平成 12 年)

背クロスの強度へのこだわり

ノートの低価格化が進む中、あえて付加価値の高いノートへと舵を切る。お客様の満足度を高めるために、徹底的に材料を研究。絶え間ない努力の結果、最後までノートを使っても破れにくい新クロスの開発に成功。



2011 (平成 23 年)

背クロス・罫内容を一新

背クロスの表面加工を見直すことで、ペンで書き込みがしやすくなったほか、罫内容を変更したことで、より線が引きやすく使いやすいノートに進化。また、新に開発した中紙原紙により、環境への配慮と快適な書き心地をの両立を実現させた。



～リエデンプロジェクト～

コクヨ工業滋賀では、水環境、生態系保護に大切な役目を果たしている琵琶湖のヨシを守り、育てるためのヨシ刈りボランティアを積極的に行っている。枯れたヨシを刈ることで新しい芽の成長を助け、健康的なヨシが育ち、ヨシ群落が活性化する。そのヨシの新たな活用に取り組み、琵琶湖をはじめ、ヨシへの環境意識を広く地域に普及させることを目的に、2007 年に「ReEDEN (リエデン) プロジェクト」を発足した。

琵琶湖・淀川水系のヨシを使用した紙製品文具シリーズを開発・製造し、商品を通じて琵琶湖をはじめとする、美しいヨシ群落の風景を後世に受け継ぎ、生物多様性に富んだ琵琶湖の自然環境保護の啓発に繋げている。

なお、使われるヨシは紙全体の 1% 程度ではあるが、和紙のような風合いで、名刺や菓子包装などにも使われ、高級感を演出する。

～コクヨの拘り～

工場内は撮影禁止だったため、写真で紹介できないのが残念ではあるが、随所に日本企業らしいコクヨの拘りを見ることができた。

● 色のローテーション

キャンパスノートにおいて、現在は 5 冊(5 色)をシュリンク包装したパック売りが主流であるが、店頭で色のバリエーションをわかり易くするため、各色が前面に来るよう、色をローテーションさせてシュリンク包装している。

● 表裏の罫線合わせ

表裏の罫線がずれるとフチが美しくないため、表裏の罫線が合うように印刷&丁合して生産している。

● 複写伝票のフチの白色戻し

青いフチで手が汚れる心配(実際は汚れない)を排除するため、わざわざフチを白色に戻している。

【タカラスタンダード株式会社びわこ工場】

訪問日時	2023 年 11 月 17 日(金)15:20~17:10
応 対 者	工場長 蟹田 基成 氏 生産課長 相井 俊一 氏 事務課長 宇都宮健司 氏
随 行 者	東近江市商工観光部 野神 陽平 氏 東近江市企画部 内田 知弥 氏

タカラスタンダードは、システムキッチンやユニットバスなどを製造販売する大手住宅設備機器メーカーであり、システムキッチンや洗面台の国内シェアでトップクラスを誇る。

滋賀県東近江市を拠点とするびわこ工場は、レンジフード、換気扇生産の主力工場、珪瑯加工品(和歌山工場生産)を除く、塗装製品を生産している。

設立：昭和 50 年(株式会社宝国製作所)

平成 11 年(タカラスタンダードと合併)

従業員：約 150 名(男女比率 6：4)

生産能力：レンジフード 25,000 台／月

換気扇 1,000 台／月



(以降、都合により省略)

【編集後記】

コロナ禍での開催見送りを経て、4年振りに開催した8回目の工場見学会は、会員団体の傘下企業である「コクヨ工業滋賀」の視察を中心に、滋賀県の琵琶湖湖東と東近江エリアにてコーディネートした。

インバウンドに人気の京都に近く、観光シーズンでもあったことから、混雑を見越して余裕のある予定を組んだものの、特に二日目は前日の雨の影響からか、思っていたよりも人出が少なく、移動がスムーズ過ぎて時間を余してしまった点は反省点ではあるが、前回の過密スケジュールよりは、ゆったりと周れて良かったのかもしれない。

ただし、今回は常連メンバーが現役を退かれた関係などで、過去最少人数(5名)での開催となり、事務局としては少し寂しさも感じる。来年度、開催できる状況であれば、新たなメンバーの参加に期待したい。

最後に、今回の視察において、一般社団法人全日本文具協会、東近江市役所には多大なるご支援を頂き、この場を借りて御礼申し上げます。

事務局 春原政則

日用品工業団体協議会 工場見学会 2023 報告書

2023 年 12 月 12 日制作

制作 日用品工業団体協議会 事務局

〒103-0013

東京都中央区日本橋人形町二丁目 15 番 2 号 4F

一般財団法人生活用品振興センター内

TEL 03-3639-8881 FAX 03-3639-8880

E-mail. nikkokyo@gmc.or.jp
